

Title	医薬品メーカーの競争戦略 - 上位20社の市場シェア変動分析 -
Sub Title	
Author	柿崎大司(Kakizaki, Daiji) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第750号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0750">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0750</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	柿崎 大司 (ファイザー製薬株式会社)	主査	小野桂之介
		副査	古川 公成 柳原 一夫
所属	小野桂之介 研究室		

## 医薬品メーカーの競争戦略

### － 上位20社の市場シェア変動分析 －

本研究は、日本の医薬品企業上位20社を対象として、過去20年間の市場シェアの変動を小野・根来の競争構成要因との関連性を確認しながら分析を行った。分析方法としては、競争要因別の時系列データの比較および重回帰分析を用いた。また市場シェアの変動に影響を及ぼす市場の構造、政府の産業政策、顧客・流通の特徴も検討し市場シェアとの関連性を説明することができた。

さらに医薬品市場は代替性のない細分化されたサブマーケットにより構成され、シェア変動の要因を決定する要因も各サブマーケットで異なると思われたので、薬効小分類別市場まで分析を進めた。

分析の結果としては、国内の医薬品企業にとって効率のよい競争要因と考えられるものが3つ選択された。それは、以下の通りであった。

- ① ホスピタル・カバレッジ増加率（競争要因：サービス）
- ② 新製品比率（競争要因：個別製品力）
- ③ サンプル提供率（競争要因：購入の便宜性）

また本研究のフレーム・ワークである企業間格差におけるインパクト曲線の存在については、論理の一部は確認できた。それは競争要因の格差には、回避ゾーン、許容ゾーン、有効ゾーン、無意味ゾーンの4つがあり、企業は各競争要因でどのような行動をとれば市場シェアを獲得できるかである。

研究の課題としては、製品力などの競争要因を質的・量的に測定するときの指標のとり方および解析法の検討であった。